

英文校閲の実際 第18話

——できるだけ易しい英文を書くように努めよう！

日本人は概して難しい英文を書く傾向があります。今回の最初の文例 41 はその典型です。また文例 42 では英文には日本文以上に論理的に正確であることが要求されることを学びます。

文例 41 : Preliminary Single-dose Toxicity Study in Monkeys: (7/7)

Results and Conclusion より

(校閲前原文) : ⑩ The vomiting episodes seemed to be associated with the increase in plasma drug concentration after each dose, therefore, hematogenous effects of ABC-123 on vomiting may need to be concerned the vomiting seen in monkeys. ⑪ It was concluded that vomiting at 100 mg/kg and more and salivation at 1000 mg/kg was toxicologically significant change after single dosing of ABC-123 in monkeys.

(和文) : ⑩嘔吐発作は各投与後の血中薬物濃度の増加に付随した現象であると考えられ、したがって、ABC-123 の嘔吐に対する血行性の影響がサルで見られる嘔吐に関係づけられる必要があるかもしれない(注)。⑪サルに ABC-123 を単回投与した後に、100 mg/kg 及びそれ以上で認められた嘔吐と、1000 mg/kg で認められた垂涎は、毒性学的に有意な変化であると結論された。(注 : ⑩の後半の和文は、原文に問題があることを示すため、原文に忠実に翻訳しました。)

(校閲後) : ⑩ The vomiting episode seemed to be associated with an increase in plasma drug concentrations after the dose, therefore the plasma levels of ABC-123 may be responsible for the vomiting seen in monkeys. ⑪ It was concluded that vomiting at 100 mg/kg and above and salivation at 1000 mg/kg were the toxicologically significant changes after a single dose of ABC-123 in monkeys.

(解説) ⑩の原文は、主語の“The vomiting episodes” (嘔吐発作) が複数形ですが、校閲者は“The vomiting episode”と単数形に修正しました。ここは嘔吐発作のメカニズムを論じており、個々の嘔吐発作ではなく、全ての嘔吐発作を包括的に扱うため、包括的用法の「the+単数形の名詞」、すなわち“The vomiting episode”が正解です。また、原文では、“the increase in drug concentration”と、“increase”に“the”を付け、“concentration”を単数にしていますが、校閲者は“the”を“an”に変え、“concentration”を複数形に修正しました。理由は、「血中薬物濃度の「増加」という現象はどの個体でも起き、特定されないため、特定するための“the”よりも非特定の“an”が適切であること、及び血中薬物濃度は複数の動物について複数回測定するため、データが複数あるからです。また、校閲者は原文の“after each dose,”を“after the dose,”に修正しました。嘔吐は血漿中薬物濃度が高まればどの投薬でも起きるので、個々の投薬を意味する“each dose”よりも、全ての投薬を包括的に扱う“the+単数形の dose”が適切だからです。

原文⑩の後半の“hematogenous effects of ABC-123 on vomiting may need to be concerned the vomiting seen in monkeys.”は、上記の対応する和文(直訳)で明らかのように殆ど意味

不明な悪文です。この文章が悪文である理由は3つあります。1つは文章が長すぎることで、2つ目に“hematogenous”という難解な専門用語を使ったことです。本来“hematogenous”という単語は、“hematogenous cancer metastasis”（がんの血行を介した転移、あるいは「播種性全身転移」）の意味で使われる用語です。SDが“hematogenous effects”の2語で表現したかったことを筆者が想像しますと、「イヌでは投薬から1時間以内に嘔吐が起こることから、薬物が胃粘膜の感覚神経を介して脳の嘔吐中枢を刺激して嘔吐すると考えられるのに対し、サルでは投薬の数時間後に嘔吐が起こることから、薬物の血中濃度が高まった結果、薬物が血液を介して脳の嘔吐中枢を刺激して嘔吐が起こると考えられる」と論じたかったようです。SDは上記の3行ほどの内容を、“hematogenous effects”の2語で表現したことで、自分が専門家にしか書けない高度な英文を書ける能力を持っていることを誇示したつもりかもしれませんが、報告書の目的は試験結果を読者に分かりやすく伝えることにあり、そのためには特殊な用語を用いた難解な英文ではなく、できるだけ易しい文章を書くべきです。

原文⑩が悪文である3つ目の理由は、述語の“may need to be concerned the vomiting seen in monkeys.（サルの嘔吐に関係づけられる必要があるかもしれない）という述語にあります。「関係づけられる必要があるかもしれない」は、要するに「関係があるかもしれない」をより解り難く表現しただけです。米国人校閲者は、“the plasma levels of ABC-123 may be responsible for the vomiting”（ABC-123の血漿中濃度が嘔吐と関係しているかもしれない）と、高校生レベルの易しい英語でSDが言いたかったことを表現しています。日本人が書く英語は、英米人が書く英語よりも遥かに難しい場合が多いことは本シリーズでもこれまで何度も指摘しましたが、この文例41もその典型例の1つです。日本人は校閲者が書いたような、易しい表現を見習うべきです。

⑪の原文の“was toxicologically significant change”が、“were toxicologically significant changes”と、複数形に修正されました。理由は、主語が嘔吐と垂涎の2つあるからです。また、⑪のIt was concluded that vomiting at~”の“vomiting”の前に“the”が追加されましたが、この“the”は「前述の」の意味の“the”です。また、“and more”が“and above”に修正された理由は、“and more”が文末に来ると、「~など」の意味になるので、「~以上」の意味にするために“and above”に修正されたのです。

文例42 : Four-week Oral Repeated-dose Toxicity Study in Rats, (1/9)

Results and Discussion より

(校閲前原文) : ① No animals died in any group during the treatment period. ② All animals in each ABC-123 group took almost close to the target dose. ③ Small mass on the back was observed in animals in the 30 mg/kg group or more during the last week of the treatment period.

(和文) : ①投与期間中に死亡した動物はなかった。②各 ABC-123 投与群の全ての動物が目標投与量に近い薬物を摂取した。③投与期間の最後の週に、30 mg/kg 群以上の複数の動物の背部に小腫瘍が認められた。

(校閲後) : ① No animals died in any group during the treatment period. ② All animals

in each ABC-123 group received close to the target dose. ③ A small mass on the back was observed in animals receiving 30 mg/kg and above during the last week of the treatment period.

(解説) ① 問題なし。②の原文の“took almost close to the target dose” (殆ど目標に近い投与量を摂取した) が、“received close to the target dose” (殆ど目標に近い量の投与を受けた) に修正されました。修正理由は、他動詞の“took”を使用すると、ラットが「能動的に」、あるいは「意図的に」目標投与量を摂取した、の意味になり、事実に反するからです。実際は、あらかじめ測定された摂餌量から計算された濃度の薬物を混入させた餌をラットが食べているうちに、「受動的に」目標量の薬物の投与を受けていたわけですから、校閲者は“took”を“received”に修正したのです。英語が日本語よりも論理的に厳密な言語であることはこれまでも何度か指摘しましたが、これもその1例です。また、“almost close” (ほとんど近い) は、日本語では違和感がなくても、英米人には「ほとんど」と「近い」が「馬から落ちて落馬した」たぐいの論理の重複表現と感じられるため、校閲者は“almost”を削除しました。これも英語が論理に厳密であることを示す1例です。

③の原文の“Small mass on the back was observed”の“Small mass”が“A small mass”に修正されました。修正の理由は“mass” (組織塊) が可算名詞なので、単数なら不定冠詞“A”が必要で、複数なら“masses”と複数形にする必要があるからです。校閲者は単数と解釈しましたが、この修正にはいささか問題があります。不定冠詞の“a”は、不特定の1つを意味するので、修正後の文章の、“A small mass on the back was observed in animals”は、「各個体に1個ずつ“mass” (組織塊) が観察された」という意味になり、少々不自然だからです。後の第20話の文例46の剖検所見によれば、この“mass”が「褐色脂肪の塊」であることが分かります。そして、脂肪組織ならその性質上、全ての個体にそれぞれ1個ずつ脂肪塊を作るのは不自然です。修正の結果、不自然な記述になった理由は、この所見を“Small mass”と表現したことが説明不足であったからと思われる。この所見は肉眼的には恐らく皮膚の盛り上がりとして観察され、触診では1個ないし複数の塊として感じられたと推定されます。これらをもう少し詳細に記載し、「剖検では褐色脂肪の塊であることがわかった」と補足説明しておけば分かりやすかったと思われます。もし筆者が校閲者なら、SDに連絡し、もっと丁寧に記載するよう助言するところです。

③の原文の“observed in animals in the 30 mg/kg group or more”が、“observed in animals receiving 30 mg/kg and above”に修正されました。原文③が良くない理由は2つあります。1つは、“or more”が文末に来ると「～など」の意味になるため、「30 mg/kg 以上」の意味にするには“and above”にすべきこと、もう1つの問題は、“or more”を“and above”に置換しただけでは“30 mg/kg and above groups”となり、これでは“and above”が“groups”を修飾することになるからです。本来、“and above.”は、修飾すべき対象である投与量を修飾する必要があります。そこで校閲者は、“observed in females receiving 30 mg/kg and above” (30 mg/kg以上の投薬を受けた雌動物に観察された) に修正しました。この修正により“groups”が不要になった結果、“and above”が30 mg/kgを直接修飾することになり、問題がなくなりました。

(馬屋原 宏)